

E-10 瀬戸内海島しょ部の生活環境に関する基礎調査

第4報 生活環境評価—大三島の場合—

松山東電短大 ○山口幸恵 大原早苗 広島女学院大短大 富士田亮子
桃山学院短大 佐々木ひろみ

目的 第1報の目的に基づき、本報では架橋島住民の生活環境に対する満足度と調べ、対象地の持つている特性と、その特性を生みだしている要因との相互関係を明らかにする。

方法 生活環境施設の現況は、市町村統計と現地調査により、これと併用してアンケート調査を行い、島民の生活環境に対する評価を聞いた。評価内容は①安全性②保健性③便益性④快的性・文化性で、評価の仕方は三段階法とした。有効部数は532部で、有効率はほぼ100%である。

結果 各集落には、日用の食料品店・衣料品店・雑貨店、農協又は農協支所、集会所、公民館等の施設がある。その他の施設については、高校、し尿処理場・ゴミ処理場等は島に1つ、中学、医院・保健所・診療所、クリーニング店等は各町役場所在地のみとまっている。児童公園は少ないが保育所・集会所・小学校が遊び場として解放されている。環境評価では、各集落に共通して不満足度の高いものは、娯楽施設、スポーツ施設、公衆便所、子供の遊び場・運動場・遊園地、図書館等の施設に対するもので快的性・文化性に関するものが多かった。これに対して集落毎に反応のちがう医院・保健所・診療所、大型ゴミ・各所ゴミの回収、駐車場、役場や農協、中学・高校への通学等に対する不満足度は、町役場から遠のいた集落で高くなっており、保健性、便益性に関するものが多かった。